

## ノイエスだより

ノイエス朝日(朝日印刷工業株式会社)  
前橋市元総社町六七番地  
電話 027・255・3434  
FAX 027・255・3435

数日前に「全ての学校と、高齢者の宅配給食をオーガニックにする」という試みに挑戦したフランスの小さな村の一年間を描いたドキュメンタリー映画「未来の食卓」を見ました。

フランス南部、アルルの近くのガール県バルジャック村。

ショール村長は、子どもたちの未来を守るため、地球の未来のため給食のオーガニック化に挑戦しました。有機食品は高く品数も豊富でなく村の財政でまかなえるのか、なぜ有機に変えるのかと大人たちは戸惑いましたがオーガニック給食や学校菜園での野菜作りを通して自然の味を覚えた子どもたちに巻き込まれ、現在ではガール県にはオーガニック農家が二七八世帯もあり、フランスをリードする存在となっているそうです。農薬散布や遺伝子組み換え技術で生産力がアップしている反面、間接的に免疫力の低下でウイルスが増殖する環境を作ってしまったという現状を見てショックでした。ショール村長は最後にこんな言葉を残しています。「人の命と健康の代償は一体いくらだ？費用のことは心配しないでいい。相談相手は自分の良心、それしかない」と。

また、同じ日のテレビで岩手県遠野市での「地域ITC(情報通信技術)遠野型健康増進ネットワーク事業」の現状と遠野市助産院「ねつと・ゆりかご」の開設、遠野わらすこプラン(遠野市少子化対策・子育て支援総合計画)を取り上げていました。遠野市には地域に循環器系の専門医が不在、また市内に出産を取り扱う医療機関が平成一六年からなくなり妊婦の不安と通院負担を解消するため平成一九年に「ねつと・ゆりかご」を開設し、助産師を市職員として採用し、妊婦主治医との連携協力のネットワークをつくり遠隔妊婦検診を主軸に妊産婦支援を実施しているそうです。「食」が見直されている今。食材や調理方法などをもう一度見直してみる必要があるか・・・と思います。また、地産地消を考えて、少しは時間をかけ、手間をかけて作る料理を効率良く作り、無駄なく食べることが心掛けていきたいと年頭に思いました。誰もが安心して暮らせる社会を望んでも、高齢化で車を運転しなくなった人にとっては買物すら容易に出来ない現状が目前にあります。若い層の一部の人は、ネット販売で安心して口に出来る食材を購入したりしています。ここにも食の格差が出てきているのでしょうか。それは、しばらくすれば健康の格差にもつながりかねない危険をはらんでいると思うのですが・・・\*オーガニック・「有機」「有機栽培」。農薬、化学肥料は使わない。有機認証がありません。(武藤)

## ノイエス朝日の展覧会案内

X氏のコレクション展 PART II  
二月三日(木)～十日(木)  
午前十時～午後五時

## ガラスと土と木の展覧会 &lt;企画&gt;

馬越寿(ガラス)・金井君江(トンボ玉)・木村明(ガラス)  
小林一夫(木工)・中村利喜雄(陶芸)  
二月十九日(土)～二十七日(日)  
午前十時～午後五時

ノイエスで個展をしている木村明さん、中村利喜雄さんと群馬県立歴史博物館ショップで作品を出品しているトンボ玉作家の金井君江さんに加え、安曇野で制作をしている木工作家の小林一夫さんと、神奈川県で作品作りをしている馬越寿さんによる生活に楽しさをプラスした作品が並びます。生活に「一つの遊び」を。

\*展覧会の案内状は次回にお送り致します。

ノイエス講座 本間教室のご案内  
「量子力学―極限の世界を律するもの」

講師 本間重雄

日時 二月十六日(水)午後二時～

会場 ノイエス朝日 スペース1

受講料 一〇〇〇円(ドリンクサービス)

ご予約 展覧会会期中にお電話下さい。

電話 027・255・3434

予定 II 三月十六日(水)午後二時～

III 四月二十日(水)午後二時～

両日共、会場、受講料は同じ

## 新刊のご案内

未完の近代を旅した詩人

「伊藤信吉論」

東谷 篤(とうこく あつし)  
沖積舎 三八〇〇円＋税

二〇〇二年の八月、雷が鳴り響いていた日に、詩人の伊藤先生は九十五歳で風雨に誘われるように旅立ってしまった。あまりにも身近な存在で、しばらくは心にばかりとあいた穴が塞がらなかった。毎月のように出版の事や文学館の仕事で前橋に来られると夕食を数人で楽しんだ。本には書かれない諸々のことを笑いを交えて話してくれた。つい先日のように感じる。

東谷 篤著「伊藤信吉論」を入手。三十一歳の若かりし時の写真真像をめくると懐かしい笑顔が「前橋は風が吹いている？」という声が遠くから聞こえた。ステッキを高々に振って別れを告げる仕草がとても懐かしく可愛らしく思えた。「故郷脱出」から「社会のうねりの中で」「敗北」のむこう「遺産を受け継ぐ」「ユートピアへの旅路」「わが内なる上州回帰」と目次は続く。挫折を乗り越えながら、上州を、上州の風をいつでも心の中に感じていた伊藤先生の九十五年間を再び一緒に旅してもらえればと思う。(武藤)

東谷 篤 一九五四年一月、山形県生まれ。

一九七六年より学校法人城北学園勤務。

日本社会文学会会員。

東京練馬区在住。

\*ノイエス朝日で取り扱っております。

郵送ご希望の方、お電話またはFAXでお申込み下さい。

「岡本健彦 横須賀、ニューヨーク、高崎」

会期 三月二十一日まで(月曜休館)

会場 群馬県立近代美術館 027・346・5560

時間 午前九時三十分～午後五時(入館四時三十分まで)

観覧料 一般三〇〇円 大高一五〇円

\*是非、ご覧下さい。アーティスト・トークや対談があります。日時については直接お問い合わせ下さい。